

公民科学習指導案

授業者 十文字中学・高等学校 公民科
浜 彰史

1 実施日時・場所：2023 年 10 月 11 日（水）5・6 時限（13:00～14:40）
十文字高等学校 5 年（高 2）萩組 教室

2 実施科目：自己発信コース「公民系」（高校公民科「政治・経済」に準ずる選択授業）

3 学年・クラス：5 年（高 2）萩組（自己発信コース）
本校で、令和 4 年度から開設された「自己発信コース」1 期生。選択授業（4 分野・計 8 単位）は「歴史系」「公民系」「理数系」「数学系」から構成されている。本授業には、「公民系」（4 単位）を選択した 12 名と、留学生 1 名が参加している。授業者は 1 年「公共」から継続して担当している。総じて活発であり、知的関心・意欲も高く、プレゼンにとって重要な度胸もある。一方、知識的裏付けを持たせようと、参考文献とテーマの結びつきなど「縛り」の設定を強くした課題では、やや元気がなくなる生徒が多い。学術的裏付けと、豊かなプレゼン力を伸ばすこととのバランスを考慮して指導する必要がある。

4 単元名：沖縄修学旅行「唯一無二のパンフレット（ガイドブック）を作ろう」

5 全体計画と本時の目標（全体 24 時限扱い・本時は 19・20 時限）

時限	主な学習活動	評価（観点）
1-2	各自の PC を活用し、雑誌の <u>記事となるテーマを探す</u> 適宜、NIE 配信 6 紙および沖縄 2 紙を読む	・より多くの媒体を、デジタル・アナログの両方から入手する（知識・技能） ・得た情報から、自分のまとめたい記事テーマが結びつくか検討する（思考・判断）
3-4	<u>簡易ホワイトボード 1 枚に現在のアイデアをまとめる</u> 4 時限目には、 <u>1 人 1 分間の発表</u> を実施（＝編集会議①）	・1 枚の限られたスペースに、簡潔かつ明解に記事計画をまとめる（思考・判断） ・他者の発表を聞き、自分のアイデアに役立てる（主体的努力）
5-10	編集会議で得た反省・アイデアをもとに、 <u>A4 見開き 2 ページのレイアウトを制作する</u> 9・10 時限目に、 <u>作業途中に移動時間</u> を設け、他者のアイデアと共有する。	・読者の注目を得やすいデザインを考える（思考・判断） ・他者のアイデアを共有し、その後の編集に活かす（主体的努力）
11-12	<u>基本的レイアウトを完成</u> させる。12 時限目は、実際に作業中の画面を開き、 <u>作業過程と現時点でのレイアウトを発表</u> し、記事の柱を確定する（＝編集会議②）。	・文章や資料写真の内容が適切か、情報源を参照する（知識・技能） ・情報量の過不足、写真・イラストとのバランスを考える（思考・判断）
13-16	<u>レイアウトの拡張および記事発表会の準備</u> （おおまかな構成） 参考にした新聞記事・文献を見直し、参考文献と記事テーマの接点が発表できる準備を進める。	・市販の雑誌をサンプルとして提示し、レイアウトの参考にする（知識・技能） ・読者の注目を得やすいデザインを考える（思考・判断） ・他者のアイデアを共有し、その後の編集に活かす。（主体的努力）
17-18	<u>記事発表会・質疑応答の準備</u> （細部の詰め） 所定のスライド枚数・制限時間内に収まるように情報を整頓する。	・時間内に、効果的なプレゼン達成をめざす（思考・判断）
19-20	<u>記事発表会・質疑（19 時限）および最終校正会議（20 時限）</u> ※本時 記事の最終決定に向け、ほぼ完成している記事について発表し、改善できる部分について参加者全員で考える。 後半は、最終校正に入る前に、ページ配列について、効果的な見せ方ができるように合議して決める。	・参考文献をきっかけとしたことが、記事内容に裏付けられている（知識・技能） ・時間内に、効果的なプレゼン達成をめざす（思考・判断） ・互いの記事をブラッシュアップできるような意見・質問をする（主体的努力）
21-24	<u>最終的な校正</u> 【前半】記事の誤字脱字・著作権などの確認 【後半】参考資料・文献の確認・電子書籍の編集準備	・出来上がった記事をもう一度見返し、限界まで内容の吟味・改善をしようとする（主体的努力）

6 全体の指導目標

- (1) 生徒だけでなく、大人にとっても興味深い構成にするため、新聞記事・書籍・雑誌など、確かな情報源を活用することができる。(知識・技能)
- (2) 読むことで、修学旅行への学びが深まるガイドブックを制作するため、個々の生徒が、読み手の気持ちになってテーマを設定し、記事を制作することができる。(思考・判断)
- (3) 内容の確かさに加えて、「きれい」「美しい」教養系雑誌としての体裁をめざし、レイアウトを考慮することができる。(思考・判断)
- (4) 他者のデザイン・内容について、互いに認め合い、質問と会議・校正を繰り返し、このクラスならではのカラーを押し出したガイドブックを完成させようと、創意工夫することができる。(主体的努力)

7 本時の学習

- (1) 本時の目標 (19・20時限)

- ①ガイドブック記事について、自分が執筆した内容について、決められた時間内に「記事の選定理由」「参考にした記事・文献」「記事の概要」「特徴・創意工夫」「今後の改善点（メンバーにアイデアをもらいたい部分）」の5点について、要件を満たしたプレゼンテーションを行うことができる。(知識・技能)
- ②他者のプレゼンテーションに対し、「知識の確かさ」「内容のわかりやすさ」「見せるための工夫」という3つの軸に対し、5つの評価段階（評価シートのループブックは別途提示）で相互評価し、発表者の作品がよりよくなるための意見を発信することができる。(思考・判断)
- ③互いの評価用紙を受け取り、他者の意見や提案を作品に参考に、よりよい記事を目標として制作することができる。(主体的努力)

- (2) 学習指導案（本時）

第19時限（5時限目・45分）

過程	学習活動・内容	指導上の留意点・評価	教材・資料の活用
導入 (6)	① <u>プレゼンテーション・ルール確認</u> 選定理由・参考文献・記事の内容・特徴と工夫・今後の改善点 ② <u>プレゼンの準備（最初の生徒）</u>	本時以前にも伝えてあるので（17-18 時限）、簡潔に説明することを心掛ける。 この時点で不安があれば挙手させ、最初の発表者が準備する間に簡単なアドバイスを適宜実施する。	電子黒板 ルール説明の板書（iPad 使用） 生徒各自の端末
展開 (36)	③ <u>プレゼンテーション【前半】</u> 【構成】1名あたり180秒 ・記事についての発表（標準90秒～上限120秒） ・質疑応答（標準60秒） 予定では、10名程度を想定 ※第20時限「展開」の⑤プレゼンテーション【後半】と調整	【評価・観点】※発表者 「記事の選定理由」「参考にした記事・文献」「記事の概要」「特徴・創意工夫」「今後の改善点」の5点について、要件を満たしたプレゼンテーションを行うことができる。(知識・技能) 【評価・観点】※評価者 他者のプレゼンテーションに対し、「知識の確かさ」「内容のわかりやすさ」「見せるための工夫」という3つの軸に対し、5つの評価段階（評価シートのループブックは別途提示）で相互評価し、発表者の作品がよりよくなるための意見を発信することができる。(思考・判断) 評価用紙の記入については、この時限の最後に、記入時間を設ける。 (時間が余っていても、次の発表者には進まず、評価用紙記入に割く)	評価用紙 (A5 サイズ。自分を除くすべての生徒に評価・質疑する) プレゼンタイマー
接続 (3)	④ <u>次の時限についての説明</u>	次の発表者は、始業前に準備しておくよう指導する。	生徒各自の端末

第20時限（6時限目・45分）

過程	学習活動・内容	指導上の留意点・評価	教材・資料の活用
展開 1 (15)	⑤ プレゼンテーション【後半】 【構成】1名あたり180秒 ・記事についての発表 （標準90秒～上限120秒） ・質疑応答 （標準60秒） 発表は、4～5名程度を予定	【評価・観点】 活動③に同じ。 それぞれ、発表者として(知識・技能) 評価者として(思考・判断)能力を評価。 この時間の終わりに 評価用紙の記入時間を設ける。	評価用紙 （A5 サイズ。自分を除く すべての生徒に）
配布 (5)	⑥ 評価用紙の交換 ・出席番号ごとに評価用紙を並べる ・発表者は、自分の出席番号のついた 用紙をまとめ、持ち帰る	机の上を整頓し、誰のシートを置く場所か はっきりさせておく。	目玉クリップ （評価用紙をまとめる）
展開 2 (20)	⑦ 編集会議 各自の編集画面を開き A：3人組（4人組）ワーク(5分) 近くで3人（4人）組になり 文字校正 表現があいまいな部分 レイアウトの微調整 について、互いの作品について 質問・意見を交わす B：4人組（5人組）ワーク(7分) Aの作業と同じ。 このグループでは 最終的なページの並びも考え C：雑誌の構成決定会議(8分) 各発表者のテーマが記入された用紙 を、4人（5人）組の机上で並べ替 え、最適なページ構成を決める 決めたら、各班、前の黒板に貼る	他者の作品だからこそ、 正しい作品・より多くの工夫 を心掛け、校正する。 【評価・観点】 自分以外の生徒の作品について、 誤字脱字を念入りに校正し、 よりよい作品の完成をめざす。 （知識・技能） 【評価・観点】 互いの評価用紙を受け取り、他者の意見 や提案を作品に参考に、よりよい記事を目 標として制作することができる。 （主体的努力）	評価用紙（束） （必要に応じて、返却され た用紙にアイデアをメモし てもよい） テーマタイトル用紙 （A3 の半裁） マグネット
まとめ (5)	⑧ 次回の最終校正に向けて 各班の出したページ構成を題材に 共通するテーマ構成について考えさせる 残り4時間で ・データ提出 ・印刷データの確認・校正 ・電子データ用雑誌の準備 ・印刷・製本の完成品確認 と進む旨を伝え、授業を終える	予定では3チーム（3案）出てくる。 3案とも共通している特徴について 意見を自由に交わし ある程度の構成を確定する。 最終的には、見開き版（電子書籍）と 分割版（印刷しおり）の2版提出すること を丁寧に確認する。	2019年度のしおり （QRコードを通じて、ク ラウド上のデータにアクセ スできることを示す）

以上